

令和8年2月18日

令和7年度病害虫防除技術情報（第9号）

和歌山県農作物病害虫防除所

ミカンナガタマムシの発生に注意してください

ミカンナガタマムシの発生が増加しているため、必要に応じて対策を行いましょう。

1. 対象作物：カンキツ

2. 対象地域：県北部(海南市下津町)、県中部

3. 発生量：やや多

4. 発生状況

- ・海南市下津町を中心に、ミカンナガタマムシの食入により樹勢が急速に低下し、枯死に至る樹が多く報告されるようになった。
- ・これまで県内の発生時期は主に5月下旬～7月であったが、2025年は有田地域において10月に粘着トラップに誘殺された。

5. 生態

本種はカンキツ類全般を加害する。

成虫の体長は約6～10mmで、体色は黒銅色である(写真1)。成虫は葉を周辺部から食害し、ノコギリ状の特徴的な加害痕となる(写真2)。主枝や亜主枝を中心とした樹皮に産卵を行い、孵化した幼虫は樹皮下に潜り込み形成層を食害することで、樹勢の低下や枯死を引き起こす(写真3、4、5)。

成虫は5月下旬～10月に発生する。発生最盛期は6月および9～10月。例年は年1回の発生となる。

樹勢が低下した樹に多く発生し、慣行防除園や健全な樹での被害は少ないが、放任園等の近隣の被害園から飛来することで加害されることがある。

6. 防除上の注意事項：

- 1) ほ場内で成虫を見かけるか、新しく被害葉を確認した場合は早急に防除を行う。
- 2) 衰弱樹に多発するため樹勢の維持につとめ、被害が激しい樹は伐採し、園内に放置せず、成虫が発生する期間までに適切に処分する。
- 3) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。特に収穫が近いほ場では、薬剤の収穫前日数に注意する。



写真1 ミカンナガタムシ成虫



写真2 被害葉



写真3 ミカンナガタムシ幼虫



写真4 被害樹



写真5 脱出孔（左）と樹皮下食害の様子（右）

担当：農作物病害虫防除所 有田川駐在
電話：0737(52)4320